

特集 表彰プロジェクト

～第3回(2016年) 理学部同窓会賞受賞者にインタビュー～

物理科卒 葛生祥平君

2016年9月10日 南7号館一階ロビーにて

—現在の状況を教えてください。

現在は、服飾の文化服装学院に入学して、服を作っています。大学を卒業した人だけのコースがあって、一番上の人だと30歳40歳くらいで、僕が下の方の年齢になるんですよ。僕は服を作る方に入りたいので、一応2年間行こうかなと考えています。



—服に興味が出たのは大学になってからですか？

祖母が洋服関係の学校に行っていて、小さい頃からミシンとか結構触っていたんですね。小学校でも家庭科とか好きでした。で大学に入って、キャンパスライフっておしゃれじゃないですか。おしゃれな服着たいなというのがあって、2年生頃から服が好きになって、服を作る方に進みたいなと思いました。

—西坂研の時の研究テーマはなんですか？

磁性細菌というバクテリアで、体の中に磁石を持っている不思議なバクテリアを扱っていて、その研究が結構うまくいきました。最後に、卒業したあとの3月末に東大で発表させてもらいました。それは西坂さんにお礼を言いたいですね。

—東大で発表できるような結果が出て、その道を捨てても服飾に行きたいというお気持ちがあったのですね？

そうですね、本当に研究は楽しくて、この道もいいなと思ったのですが、いいなと思い始めたのは結果が出始めて11月・12月だったので、大学院の入試が終わっていました。就職活動も一応やっていたんですけど、6月の時点で文化服装学院の先生方とオープンカレッジとか利用してお話をしていたので、結局専門学校を選びました。その選択は正解だったかなと思います。研究していても服のことが頭から離れないことがあって、一番はやっぱり研究よりは服が好きだったということですね。

もちろん研究も本当に面白くて楽しかった、それも西坂さんのお蔭です。西坂研の雰囲気もとてもよくて、楽しかったんですけど、人生一度きりなので ちょっとチャレンジしてみようかなという思いで専門学校に進みました。

—そこでのやりがいとかご苦労をお聞かせいただけますか。

毎日がやりがいですね。たとえば就職しても、磁性細菌に直接つながる就職って無いんですよ。でも専門学校で服を作ることを学ぶと、そのままそれが仕事になります。直接つながるし、服を作ったあとにすごい達成感があったのでそれがやりがいになっています。

苦労は、自宅が遠くて学習院まで来るのにも2時間ちよいかかかっていて、皆に比べて時間が取れないことです。バイトもしていますし、私生活と学校の授業の両立というのが今一番苦労を感じていることです

とてもハードな生活ですが、西坂研での経験があったからこそ今があるのかなと思います。

—大学生活はいかがでしたか。

1年で野球サークル、ジョイスルに入って皆でワイワイやっていました。勉強よりサークルの方に行ってしまうと、なんとかストレートで4年になれましたが、成績が本当に笑えないほど悪くて。西坂研は物理学科一厳しい研究室でしたが、いざ研究が始まってみると生き物を扱っているのが、手を動かして結果が出るのが自分の中で楽しくなりました。磁性細菌の研究が始まって、初回に結構良い結果が出て、4年生の時は磁性細菌が恋人みたいになっていました。1、2、3年と遊んでいたんですけど4年からは研究しかしていなかったなあ。本当に研究1本でしたね。

気分転換に朝10km走って学校来て研究して、友達と夕方筋トレしてまた研究やってという感じでした。

—充実した学生生活でしたね！それがすごく結果に結びついて表彰されるということになったのですね。東大での発表は学会ですか？

学会というよりもシンポジウムに近いです。生物関係の方が多く聴いてくださって、発表は日本語でしたが、スライドは英語でした。質問含めて15分くらいですね。

一番怖かったのが、英語での質問。本当にわからなくて、助教の中根さんに助けてもらったというのが今一番頭に残っています。緊張したんですけど楽しかったです。

—物理に進んで1、2、3年間は楽しい学生生活を送り、4年で研究に励んでしっかり結果を出し、完璧ですね！

この賞を頂いた時は本当に嬉しかったです。単位を落としている学生は、ふつうこの賞はもらえないらしいのですが。

卒研とか大輪講という論文発表があるんですけど、先生と学生が専門の話を発表しているから、聴いているほかの学生は理解できなくてつまらないんです。僕はちょっと面白くして、みんなが前のめりになって見れる発表をしたら、結果評判が良くて。卒検発表でも「みんな楽しみにしてるよ」とか声をかけてくれて、そのあたりが選ばれた理由かもしれません。



南7号館でのインタビュー

—将来の夢と目標についてお話しください。

いまは何としてでも服で、自分のブランド出したいなと思うんですね。

間近の目標は、自分が作った服を人に来てもらうことだったんですけど、それが達成できているので、次は自分が作った服が店頭で並ぶというのが目標ですね。

とりあえず今一番なりたいのがパタンナーです。

平面を立体にするという仕事なんですけど、作図や数字に強いから物理科にいたことは強みです。縫い

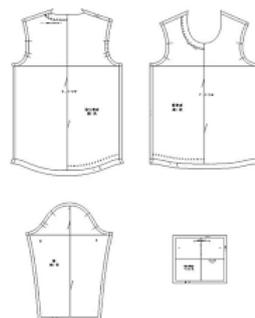
目が違うだけで本当に違う形になっちゃうんで、そこもパタンナーという仕事の魅力の一つでもあるんです。

今一番考えている就職先は…あまり就職先にはこだわってないのかもしれませんが、パタンナーでなければダメ、というのがあります。

「学習院の物理学科出て、なんでこんなところに来たの？」って言われるのですが、やっぱり洋服だけの知識じゃ着物ってできないな。僕みたいに物理の知識があるからこんなものができるっていうのがあるのかなと思っています。

—いろんなことを知っていて、洋服を作るっていうところが大事ですね。楽しそうですね。

はい、楽しいです。



パタンナーって何？

—本当に好きなことができてよかったですね。

ハイよかったです。親も反対していたんですけど今は応援してくれていて、それも嬉しい。

—それは頑張っているからですよ。

勉強やれっという厳格な父だったんです。前は、こういう服着ていると「お前その服みっともない」とか言ったんですけど、今は出かけるときとかに「これ似合っている？」とか聞いてくるまでにはなった。まだ変な服だなとは思っているみたいなんですけど（笑い）

—それはすごい、スタイリストになれますね。

親も一応応援してくれているので、それは嬉しいなと思います。

—好きな食べ物は？

お酒です

—大人発言ですね（笑い）

あとは料理名で行ったらオムライスです。

いくつになってもオムライスは大好きで、わくわくします。

—学習院の学生さんについて、理学部に限らずですが、おしゃれですか？

理学部については想像以上にチェックシャツが多いんですよ。僕も結構チェック好きなんですけど。チェックばかり着ている典型的な理学部の眼鏡かけている子はチェック着ているにしても、チェックの配分がよくて着ているらしいです。自分がおしゃれじゃないと思っている人もその人なりのおしゃれをしているんです。それはおしゃれだと思います。

—理学部同窓会について、ご存知でしたか？

この理学部同窓会便り「想」を見て知りました。西坂研に貼ってありました。

—西坂先生が研究室に「想」を貼っておいてくださって良かったですね。

—後輩に一言お願いいたします。

たとえば今物理学科にいるからといって医者になろうが、漫画家になろうがミュージシャンになろうが変えたって全然いいと思うんです。それをやりたいっていう気持ちが大事。やりたいと思うことをやっている時ってやっぱり生き生きする。他人からとやかく言われても、自分が思っていることをやっていれば楽しいよっていう感じですね。ありきたりですが、やりたいと思うことに打ち込んでほしい。今頑張ってることですかね。

—葛生君には人間力がありますね。面白いお話をありがとうございました。

化学科卒 阿出川穂君

2016年9月10日 南7号館一階ロビーにて

—現在の状況を教えてください。

そのまま大学院に進学をして、化学科の草間研究室で光を駆動力した新規反応の開発を行っています。

—その研究は、卒業研究と一緒にですか。

一緒です。そのままもっと深く研究を進めた感じです。

詳しく述べると、アシルシランに対し室温・中性条件下で光照射を行うと、シリル基の1,2-転位が進行して、シロキシカルベンが形成することが知られています。

また基底一重項シロキシカルベンは、一般的に求核性を示す化学種なのですが、このシロキシカルベンには求電子性も示すことが知られています。

そこで私の研究では、このシロキシカルベンの求電子性を利用した新規合成反応の開発を行っております。その成果として、*o*-アシルベンゾイルシランを光反応基質とし、このアシルシランと当モル量の反応基質混合物に対して、中性条件下で光照射を行うことで簡便かつ効率的に多置換ナフトール類を合成で



きることを見出しました。

—研究でのやりがいや苦勞をお聞かせください。

研究を進める中で、目的の反応が進行しない場合が多々あるのですが、そこで諦めずに副生成物を確定させ、原因を解明したうえで次のルートを考えることが大変です。

でも、自分で苦勞して考えた合成ルートで目的の反応が進行した時には、とてもやりがいを感じます。

有機合成化学協会シンポジウムというのがありまして、そこでその実験の成果を発表する機会を頂いて、頑張った良かったなと思います。

—そのシンポジウムいつあったんですか。

今年の6月ぐらいに東京の農工大であって、そこで発表しました。

—今は毎日実験ですか。

はい、そうです。

朝は9時半には研究室にいます、それで11時過ぎぐらいまで毎日実験しています。有機の研究室は、大体そのぐらいになると思いますね。

—徹夜はしないのですか？

今のところ家が近いので自転車で来れる。

—ご自宅はどちらですか？

早稲田の方にあります。

近いのも良いという所で進学もここにしました。

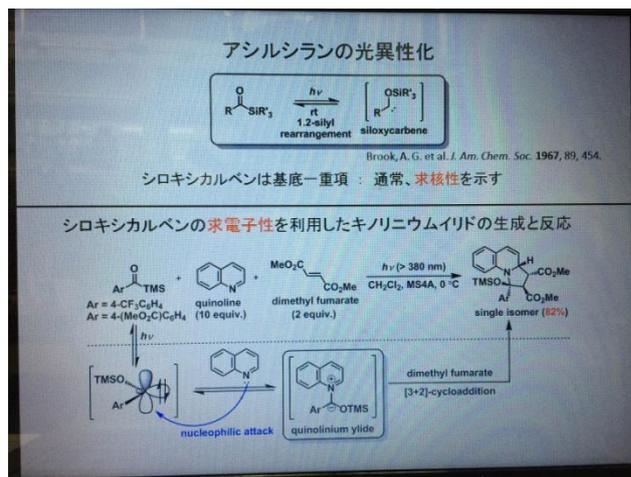
—大学生活について、いろいろ教えてください。

今は研究しかしていないんですけど、学部の際はアカペラサークルに所属してまして、そこでみんなでバンドを組んで歌を歌って、練習して。

全国大会にも出場して、1次予選しか通らなかったんですけど（笑）後はソラマチでもそういうアカペラのイベントがありまして、そこでエントリーしたら受かったんで、ソラマチで歌って楽しんでいます。歌をうたうのが好きです。

—お仲間もいて、楽しいで大学生活でしたね。

そうですね。大学院に入ってからなかなかできなく



研究



実験室



アカペラサークルにて

て、月一とかでしかサークルで歌ったりとかです、そんなに出来ない。
でもアカペラはつづけていきたいです、息抜きが無いとちょっと辛い。
—どんな歌を歌われるのですか。

基本は邦楽を歌っているんです。秦基弘とかそういう系、ミディアム系を歌っています。
—楽しそうで羨ましいですね。

—将来の夢・目標を教えてください。5年後、10年後のことで、身近な夢でもいいのですが。
今いる研究室から得た知識や技術を生かして、化学系の研究職につけたらいいなと今思っています。研究職につきたいです。

そこで自分が作ったものが売れるのが、多分達成感があるんじゃないかと今考えています。
—近い夢ですね。そこにたどり着けると良いですね。
はい。そうですね。

—化学科を専攻した理由をおしえてください。

高校2年生の時まで僕は文系で、理系科目にはあまり興味がなかったのですが、化学の授業で有機化学を学び、社会貢献がかなり高く、かつパズルゲームのようで面白い学問があることを知りました。そこで思い切って理転して化学を専攻しました。

—理学部同窓会についてご存じでしたか。

全く知りませんでした。

—そうですね。今まで何人かにインタビューをしましたが、理学部同窓会のことをご存知だった方は少ないのです。表彰を通じて、少しずつ認知されてほしいと思っております。

同窓会便り【想】のことはご存知でしたか？

昨年度に表彰された守屋さんが、そういう賞を取って【想】という会誌に載っていたのは知っていました。

草間研は、秋山研にちょっと近い研究室なので、そういう賞があるのだなというのを少しだけ知っていました。

—それで十分ですよ。

—好きな食べ物は何ですか？

好きな食べ物は、肉なら何でも良いです。

—お肉例えば何が好きですか。ステーキ、唐揚げ、牛肉、豚肉、とんかつとか。

唐揚げも好きなんですけど、やっぱり焼肉が一番好きです。焼肉なら何でも。

—よく食べに行きますか。

そうですね。よく食べに行きます。

気分をリフレッシュするみたいな感じでガンガン



焼肉が好きです

食っちゃう。

—食べそうですね（笑い）

—趣味は何ですか？

歌を歌うことです。後は高校時代にテニスをしていたのでたまにテニスをしたり、
身体も動かさないと、どんどん太ってしまう。

研究しかしていないとどんどん太ってしまう。

—そうですね。研究と焼肉は太る感じ（笑い）

やばいです、日曜日にちょっとだけ運動もやっています。

自転車とたまに歩きって感じですね。

数学科卒 豊泉伸之君

2016年1月26日 南7号館一階ロビーにて

—まず現在の状況をお聞かせ下さい。

現在は、そのまま学習院大学の大学院に進学をして、中野史彦先生の研究室に所属しています。

—どのような研究をしていらっしゃるのですか。

中野先生ご自身はランダムシュレディンガー作用素という研究をなさっていて、今僕はその研究をする為の準備として、関数解析の本を読んでいます。

—卒業研究もおなじようなテーマでしたか。

今僕がやろうとしている研究内容というのは、解析と規格と確率論の融合したような形の分野ですが、卒業研究の時は指導教授に頼んで二つのゼミに所属して確率論と解析学の両方を勉強していました。

—現在の研究のやりがいは？

まあそうですね。まだ研究をするという段階ではなくて、テキストを読んで勉強をする段階で、知識を入れている状態です。やっぱり大学院に進学して思うことは、学部時代の基本的な知識が無いと読めないんだなあと非常に痛感しています。大学院のテキストを読む中で、学部時代の内容をすごく一所懸命復習をしているって感じです。

—そうですか。ご苦労は？

僕の研究室は二人しかいないんです。先生の前で毎週発表するんですね、3時間くらい発表するんです。その準備にかなり時間をかけています。



— 3時間？

はい、2～3時間発表するんです。その準備はけっこう大変で、最初は慣れなかったんですけど、どんどんやってくるうちにコツというのを掴んでくる感じです。

ゼミで、本に書いてある定義の意味や定理の証明について、先生や仲間と考えを共有して、理解できたときにとてもやりがいを感じます。

— 研究室には毎日いらっしゃるのですか。

そうですね。毎日院生室にいます。数学科は週に1回ゼミがあるので、院生室でそれに向けて準備をしたりしています。1学期は中野文彦先生に紹介して頂いて、単位互換制度を使って東京理科大と津田塾大学の授業を受けにも行ったりしていました。

— 理科大は数学関係でしょうか。

数学の授業を取りに行っています。

— 津田塾は？

津田塾も数学の授業を取りに行っています。

まだ研究というよりも知識を入れるみたいな感じです。多分他の学科の方は、一生懸命実験とかされていますが、僕らは、まだお話出来るような研究とかはしていないって感じで、勉強しているって感じです。

— 表彰を受けた時の感想を教えてください。

表彰を受けた時の感想は、素直に嬉しかったです。嬉しかったし、表彰を受けて大学院に進学してからも、もっと頑張ろうと思えました。自分が今まで学部時代頑張ってきたことが表彰につながり自信になったというか。

これからもっと勉強をしなきゃという動機づけになりました。

— そうですか。それは良かったです。

— 理学部同窓会についてはご存知でしたか。

僕の二つ上の先輩が理学部同窓会賞を受賞されていました。二つ上の清水さんで、やはり中野史彦先生の研究室で、学部時代にお世話になっていたのを知っていました。

— 今でも清水君とはやり取りをしています。彼は生命保険関係に就職なさって、やっぱりインタビューをしたんですよ。それをウェブに載せるので、今やり取りをしています。

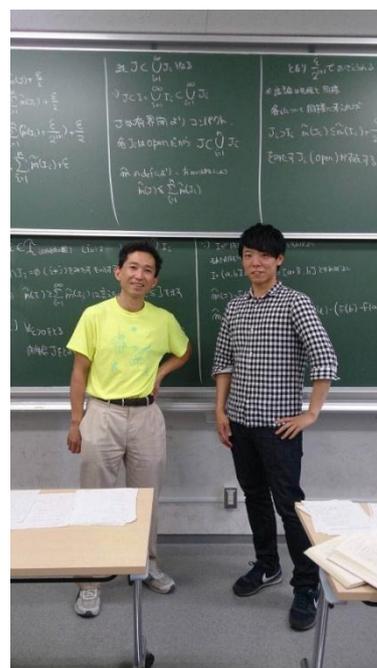
しみずさんにはお世話になりました。

— 一生懸命勉強をしていると言っておきます。

有難うございます。

— 五年後、十年後でも良いですし、近々の目標でこうしたいというのがあったら教えてください。

今は、来年研究がしっかり出来るように知識を入れて行きたいです。それを一生懸命やるのが目標と



先生とのツーショット

どうか今のやるべきことだと思っています。

五年後とか、十年後の将来は、僕は中学校か高校の数学の先生になりたいのです。五年後、十年後だとなったばかりだと思うんですけど。どういう先生になりたいかという、大学院に進学をしているので、数学の専門制のある知識がしっかりあるような先生になりたいですね。周りから、周りってというのは保護者とか生徒だけでなく職場の仲間達からも信頼されるような教師になりたいなと思っています。—素晴らしい！こんな先生になりたいという理想像があたりってということは、良い先生に今まで巡り合っているということですか。

そうかもしれないですね。今の指導教授も大学1年生時からお世話になっていて、大学院に進学しようと思ったきっかけも今の指導教授の中野研究室に入っていたからなので。

—ご両親は先生ですか？

いえ違います。

—そうですか。いい先生に巡り合ったから先生を目指したいのですね、いいですね。

そうです。恵まれていたのかもしれない。

—では教職をとられたのですね。

学部時代に取りました。学部4年のうちに教職は取り切っているの、教員免許は持っていますから私立だったら何処でも受けられることが出来ます。教員採用試験を受けたら、公立に行けます。受かるかは分からないのですが。

—ご出身はどちらですか。

高校は日大三校です。

—では東京近郊で探して先生の職をさがしていらっしゃるのですか。

そうですね。



ゼミの仲間と

—大学時代のクラブ活動とかアルバイトとか何か楽しかったこととか。お友達関係とか？

大学時代はフットサルサークルに入っていました。そんなにすごい活発な運動をしているわけじゃなくて、週に1回体を動かすくらいで、勉強に差し支えない程度の活動をしているサークルだったのでそのサークルを選びました。けっこう、理学部の方が多くて授業で忙しくても続けられるという雰囲気だったので、そこを選んでやってた感じですね。そこに4年間在籍していました。

—そうですか。フットサルは楽しいですか。

はい、まあそうですね。身体を動かす機会が大学に入ってから少ないので。

学習院の場合はコートも無料で借りられるんです。

—そうなんですか。それは良かったですね。アルバイトはなさっていましたか？

バイトは、大学に入学した時から教員志望だったので塾で働こうと決めて、河合塾の個別指導員を5年間ぐらいやっています。

—レベル高いですね。

—やっぱり世界は知っておいた方がいいですね。例えば先生になるにしても、世界の人と繋がれるような言葉が何か伝えられるといいなと思うので、世界を歩くのは良いことだと思います。

—最後になってしまいましたが、好きな食べ物は？

好きな食べ物ですか。僕好き嫌いはいらないんですけど、ラーメンすごく好きです。

—麺類ということですか？それともラーメンに限るとか。

ラーメンがすごい好きです。高校の時食べ歩きみたいなことしてました。

—何系のラーメンですか。

何系でも行けるんですけど、僕の地元が八王子で、八王子ラーメンというジャンルがあるですよ。

カップラーメンも出てるんですけど、地元ということもあって僕はすごい好きです。

—それは魚介系？お醤油系？

お醤油系です。醤油ラーメンに玉ねぎがのっている、刻んだ玉ねぎがのってるのが八王子ラーメンの特徴です。八王子の中でもお店によっていろんな味が違って、それが好きでけっこう週に1回は食べます、必ず。

—甘いものはお好きですか？

甘いものも何でも好きですよ。八つ橋とか好きですね。

—八つ橋、ピンポイントで来ましたね。

甘いものだとけっこう和菓子好きですね。

すごい甘いショートケーキよりも和菓子系が好きです。羊羹とかも好きです。

—一番最後になりますが、後輩に学生時代にこれだけはやっておくよというメッセージをお願いします。

海外旅行とかは、学生時代にお勧めします。僕はそんなに行った方じゃないですけど。

でもやっぱり、勉強！僕は1・2年生の頃はだいぶ一生懸命勉強はしたので、勉強をして良かったなと思っています。学生時代しか出来ないことと言ったら、やっぱり時間がたくさんある中で勉強するっていうのは良いことですし、将来にも繋がると思います。

—そうですね。そこで一生懸命勉強をしたことが将来必ず役に立つと私も思います。

特に教員になるとしたら、専門制がやっぱり大事かなと。高校の教師にまだなっているわけじゃないですけど、僕の中では数学の先生っていうのは

やっぱり数学についてプロであって欲しい。その方が安心感があると思うのです。そのためにはやっぱり勉強！大学時代が一番勉強出来るんじゃないかなと思うので、勉強することも大事だと思います。

—そうですね。勉強していらしたから表彰されたのだと思います。でも視野を広げることも海外旅行で



ゼミの仲間と

視野を広げることも大事だと思うし、ほんとやりたいことがいっぱいあることを全部やったほうが良いですね。

そうですね。

—多分先生になられてからも学生さんに伝えることが沢山出来て良いと思うし、落語でも甘い物のことでも何でも生徒さんに素直に伝えられるような先生が良いかなと思います。是非豊泉君が数学を志したいと思うようになった河合塾の先生みたいな先生になって、数学を志したいと思う生徒さんが一人でも二人でも出来ると良いですね。

そういう先生になりたいです。

—ただ数学を教えているだけじゃなくて、もう一步踏み込んで、数学って楽しんだなあと思える人が増えると良いですね。

そしたら、そういう先生になれば嬉しいです。

—是非々頑張ってそういう先生になって下さい。

有難うございます。頑張ります。

—割と数学嫌いっていう子も多いですね。どこかでつまづいて算数や数学が嫌いになってしまうという子がいます。数字は見たくもない、あんなことやって将来役に立つのかしらとみたいに言われる科目だったりするんですよね、理科系は。

理科系の楽しさを伝えて、これ勉強したら面白そうだなって思えるような生徒さんが増えると良いかなと思います。今理科系は少しはもてはやされていますけど、まだまだ少ないですね。いい先生になって、理系好きな生徒さんを是非増やして下さい。

はい！！

生命科学科卒 遠藤彩香さん

2016年2月2日 南7号館1階ロビーにて

—現在の状況を教えてください。

学習院大学を卒業した後、東京医科歯科大学に進学しました。研究活動は医科歯科大学ではなく、国立国際医療研究センター研究所という病院に併設された研究所で行っています。主にセラミドなどの脂質の合成を攪乱することで炎症反応におこる影響を調べています。

—国立国際医療研究センターは早稲田とか戸山というか、戸山の大きな病院の中に研究室があるのですね。研究は卒業研究と同じですか？

卒業研究は酵母の研究をしていました。卒業研究とは全く別の内



容なので、全く新しい気持ちで一から学びなおしをしています。

—研究のやりがいやご苦労を教えてください。

全く新しい分野に進んだので、すべてがまた学びなおしで、一からのスタートです。知識が不足していることが多く、その点は本当に苦労します。病院の研究所なので、大学の研究室と違って「一人の研究者」という形で扱われるので、学生だけど研究者としてちゃんとしっかり計画を立てて結果を出すように言われてやっています。そのような中でも、学習院で学んだ研究の進め方を生かせるので、ある程度は一人で決めて動けます。今までに学んだことを生かして研究が出来ることはやりがいだと感じます。



「東京医科歯科大学のキャンパスをバックに、蝶をとりました。都会の中でも昆虫や鳥に注目しながら過ごしています」

—指導される方は医学部の先生ですか？

先生は医学博士の先生です。医科歯科大学の非常勤講師をしている研究者です。教育も担う大学の先生とは違う、仕事で研究をしている先生です。

—その研究室にいらっしゃる方は医学系でなくて生命科学系とか化学系とかですか。

基礎研究の人も応用研究の人もいて、バックグラウンドは様々です。皆それぞれが一人一つのプロジェクトを担当して研究をしています。私も炎症における脂質の影響を調べるプロジェクトを与えられて、研究を進めています。

—やりがいもおありですね。

そうですね。結果を求められるので、それがまた苦労にも繋がりますが。

—お家は遠いのですか。

東村山の自宅から通っているので1時間半くらいかかりますから、通学時間が長いのは大変です。

—土日はお休みですか。

土日は、休みだったり、休みじゃなかったり、実験の進み具合によってまちまちです。

—大学生活について伺います。

大学時代、私はサークルや部活には所属をしていませんでした。その代わりに、所属していた馬淵研究



「馬淵先生、理学部事務室の桑原さんと一緒に行った小石川植物園の写真です。」

室の馬淵先生と一緒に昆虫標本を作ったり、虫取りをしたりして楽しんでいました。先生が誘って下さって学内を散歩したり。4年生になってからは、研究室の助教の先生と一緒に血洗い野池へ鳥を見に行ったりもしました。学習院は都会の中の森ですから、それを目いっぱい楽しみました。

—学校の中は昆虫が多いですか。

そうですね。昆虫も多いですし、キノコも生えていますし、自然が豊かです。血洗いの池辺りから7号館の裏、馬場を抜ける道が穴場です。夜も南門近くの虫が集まる街灯に行くと、研究室のみんなで虫さがしをしたりしましたし。

—将来の夢・目標をお聞かせください。

どういう形でも研究を続けていたいと思っています。今まで育ててくださった先生や助教の方、お世話になった方々に頑張っているな！と思って貰えるような研究者になりたいです。大学院博士課程へ行くという道もあるし、企業の研究職も考えていますし、どんな形であっても研究は続けていきたい。

—理学部同窓会についてご存知でしたか？

同じ研究室出身の比留間さんが昨年度表彰を受けられたということで、その話を聞いていました。同窓会に所属している猪越さんという方がよく馬淵先生の所にいらして、同窓会のお話も伺ったことがあります。

—好きな食べ物なんですか？

好きな食べ物、トマトが好きです。

—トマトも色々なトマトがありますよね。

オーソドックスな大きい赤いトマトが好きです。

—後は？

後は、イチゴが好きです。

—赤いものが好き？

たまたま赤いものばかりですね。

—華奢だからあまり召し上がらない？

そうです、あまり食べないと思います。

—趣味はおありですか？

趣味は、昆虫採取したり、標本を作ったりということを時々しています。今でも馬淵先生が誘ってくださって、小石川植物園へ蝶を見に行ったりします。後はバードウォッチングも馬淵研の助教の柏崎さんと一緒にやって、面白いなと思っています。最近では一人で出かけて鳥を見たりしています。家では、映画のDVDを見たりします。



「少し古い写真ですが、馬淵先生が「これも是非！」と送ってくれた写真です。馬淵先生や助教の柏崎さんと一緒に高尾山へ行って、アサギマダラを捕まえました。」

一どの系の映画が好きですか

映画は洋画を中心に幅広く見えています。最近はアメコミヒーロー物が好きです。

一バードウォッチングはどの辺で？

バードウォッチングは、近場の川や池で行うことが多いです。学習院の池にもカワセミが遊び来たりします。都内の、都内にいる鳥を中心に見えています。季節によって、夏鳥や冬鳥と、見られる鳥も移ろいます。